

月刊 MARUSHO

2021年 1月号

丸庄発、選りすぐりの情報をお届けします。



新年のご挨拶

謹賀新年

常日頃ご愛顧いただきまして誠にありがとうございます。昨年はコロナ、コロナで明け暮れた一年でしたが、今年こそはコロナを克服した年として刻まれる年にしたいですね。さて本年はそういうわけで、丸庄にとって新しい飛躍のステップの年にしたいと思っています。当社は紙の印刷を基本としながらも、最近ではデジタルの分野にも本格的に参入しており、果敢にチャレンジ、邁進したいと思っています。

創業200年を迎え、300年400年とますますお客様の販売のお手伝いができますよう、社員一同頑張っております。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

株式会社丸庄 代表取締役社長 佐々木 正一

常務取締役
鈴木 成幸

あけましておめでとうございます。
旧年中は新型コロナウイルスの影響の中、皆様より沢山のご支援ご協力を賜り有難く厚く御礼申し上げます。昨年は手探りで突き進んだ大変な一年でしたが、こうして皆さんと一緒に笑顔で新しい年を迎えることができました。こんな社会状況だからこそ本年は当社の経営方針でもある「人と人 企業と人をつなぐ架け橋として社会に貢献する」を合言葉に、従業員力を合わせて信頼にお応えできるよう努めてまいりますので、本年もこれまで同様のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の一日も早い終息と皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。

営業企画部課長
丸山 政弘

あけましておめでとうございます。
旧年中は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。昨年はコロナの影響により、直接ご訪問させて頂く機会が減るなど営業活動を行う上でも厳しい年となりました。プライベートにおいては家に籠っていた事もあり、週末はちょっとした料理(お酒のつまみ)や、今更ながら海外ドラマのプリズンブレイクにはまってしまいました。今年も流行り病には負けず、今までの丸庄とは違った新たなサービスをご提供し、お客様のお役に立つ会社を目指して頑張る所存でございます。日々の業務の中でちょっとした事でも構いませんのでご相談を頂けますと幸いです。本年も変わらぬご厚誼のほど宜しくお願い申し上げます。



ご挨拶動画



ご挨拶動画



新年のご挨拶



新年明けましておめでとうございます。旧年中はいろいろとお世話になり、まことにありがとうございました。昨年は新たな取り組みとしまして自分自身で動画の制作を行うようになり個人的には成長の年だったと思います。簡単な動画制作であればお作りする事も可能になりましたのでお気軽にご相談ください。

また本年は昨年以上にお役に立てるよう最大限の努力をする所存ですので、変わらずお引き立てのほど、よろしく願いいたします。皆様のご健勝と益々のご発展を心よりお祈りいたします。本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

営業企画部主任 加嶋 裕一



ご挨拶動画



謹んで新年のお慶びを申し上げます。旧年は格別のご愛顧を賜り、厚く御礼申し上げます。新型コロナウイルスの多大なる影響により昨年もまた素敵な恋人とは巡り合えず、プライベートでは相変わらず寂しい1年となりました。千住の夜の街のパトロールにもしばらく出ていませんので早く終息してパトロールを再開し、鈴木隊長・丸山副隊長とともに千住の夜の治安維持(飲みただけ)に努めて参りたいと考えております。業務のほうにつきましては一層のサービス向上に努め、皆様に真心のこもったサービスをご提供できるよう励む所存でございます。今後とも、倍旧のご愛顧を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

営業企画部 吉野 公大



ご挨拶動画



あけましておめでとうございます。旧年は大変お世話になり、誠にありがとうございました。昨年はコロナウイルスの影響で直接お会いできる機会が少なくなったり、私生活でも外出を自粛せざるを得ない一年になりました。自宅に籠っている時間も多かった為、得意としているスイーツづくりは勿論のこと、自身で梅酒をつけてみたりとこれまであまりやったことのない物にも挑戦してみました。本年も流行り病に負けず昨年より、より一層皆様のお役に立てるよう努力していきます。また、昨年以上にご満足いただけるサービス、お役立つ情報をご提供していく所存です。本年も変わらぬご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

営業企画部 三浦 尚途



ご挨拶動画



赤べこの豆知識



ここ数年密かなブームになっている赤べこ。ちょこんと触るとその首がゆらゆらと動く、福島県の会津若松市でつくられてきた、牛の姿をした郷土玩具。皆さんも一度はお土産屋さんで見たことがあるのではないのでしょうか？今年が丑年ということでさらに注目される赤べこについて調べてみました。

赤・白・黒のヒミツ

赤べこ伝説の赤い牛にあやかって赤く塗られたという説もあるそうですが、これには古くからの民間信仰が関係しており、赤色は呪術的な意味で病気を退散させる、と考えられてきたため。なお、この考えは会津特有のものではなく、全国の郷土玩具に見られます。

また、かつて会津では疱瘡(ほうそう)が流行したことがあったが、赤べこ伝

説の牛が身代わりになり、病気から守ってくれるという、願いを込めて病が治った時の模様を黒と白で描き、家に飾ったという。こうした言い伝えから赤べこは会津の人々から厄除けのお守りとして、子どもの誕生祝いや見舞いの品として送られるのだそうです。

赤べこ伝説とは

807年(大同2年)、福島県柳津町にある圓蔵寺の福満虚空蔵尊堂(ふくまんこくぞうそんどう)を建設していたとき、資材運びが難航していると、どこからともなく牛の群れが現れて手伝ってくれたのだ。多くの牛たちが過酷な労働に倒れていくなか、お堂の完成まで懸命に働いたのが赤い牛だったという。